



秋田ノーザンハピネットのこども食堂

みんなのテーブル

活動報告書

2023.06

秋田ノーザンハピネッツ株式会社について	P.3
秋田ノーザンハピネッツのこども食堂「みんなのテーブル」について	P.8



秋田ノーザンハピネッツ株式会社について

秋田ノーザンハピネッツ県民球団宣言

私たちは、秋田ノーザンハピネッツが秋田のかけがえのない存在になることを目指し、ここに「秋田ノーザンハピネッツ県民球団宣言」を行います。



2011年10月15日に県民球団宣言をして以来、
秋田ノーザンハピネッツは秋田に密着した活動をおこない、
秋田県民の皆さまとともに歩んできました。

- 創業当初から行なっている主幹事業として、プロスポーツチームの運営、プロスポーツ選手のマネジメント、スポーツイベントの企画・運営・主催をしています。
- 培ってきたプロスポーツチームとしてのブランド力を生かしながら、持続的に地域活性化に努めていくという想いのもと、事業の多角化を図っています。具体的には、秋田県産小麦粉「銀河のちから」を配合し、店内で焼き上げた自家製こっぺぱんを提供する、秋田市初のこっぺぱん専門店「ハチトニ製パン」の運営、クラフトビール「秋田あくらビール」の醸造・販売および関連飲食店の運営、そして直近では、2023年より秋田県由利本荘市にて「道の駅岩城」の指定管理を受託し、道の駅岩城『アキタウミヨコ』として道の駅の運営にも乗り出しています。
- また、「県民球団」として持続的に地域貢献に努めていくという想いのもと、SDGs活動を本格化しており、日本のプロスポーツ界初となる常設のこども食堂『みんなのテーブル』のオープンや、ペットボトルのキャップを集めてワクチンに替えるエコキャップ運動の展開、と地域貢献活動にも力を入れています。





人口減少率ワースト1位

高齢化率ワースト1位

出典：厚生労働省・内閣府・総務省

秋田ノーザンハピネッツが拠点をおく秋田県は
人口減少率、高齢化率が全国で一番高いことに代表されるように
さまざまなランキングでワースト1位となってしまうています。

他の都道府県よりも課題が先をいっている秋田県は「課題先進県」と呼ばれることがあります。



課題先進県の
プロスポーツチームだからできる
ここにしかない取り組みで
未来を築こう。

2021年8月2日にSDGsへの取り組み表明を記者会見にて行い、
それ以降は上記のキャッチコピーのもとSDGs活動に力を入れてきました。

特に、常設のこども食堂”みんなのテーブル”の運営の開始は、
日本のプロスポーツチームでは初となる取り組みです。



秋田ノーザンハピネットのこども食堂 “みんなのテーブル” について



「みんなのテーブル」はテーブルを「みんな」で囲み、食事をする事で、こどもたちの「おいしかった！」「たのしかった！」の笑顔を作り、居場所となることを最大の目的としています。

このテーブルから、未来を担うこどもたちを中心とした地域コミュニティが生まれ、おとなたちのさまざまなカタチの支援が産み出されていくことを目指します。

みんなのテーブルは「みんな」で育むテーブルです。

営業日

火曜日・水曜日・金曜日・土曜日

営業時間

各曜日の16:00～20:00

料金

子ども（中学生以下）：無料

高校生：300円

大人：1,000円（ひとり親：無料（週1回））

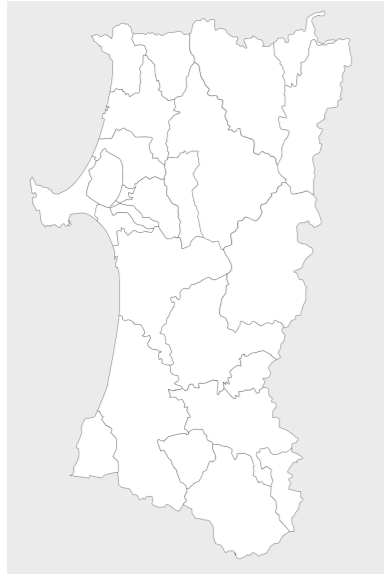
住所

秋田県秋田市広面字釣瓶町140-1

駐車場：8台

- ・ 中学生以下の子どもは料金が無料となります。
- ・ 児童扶養手当受給者（ひとり親かつ困窮している家庭）に向けて、秋田市役所からチラシを配布し、チラシを持参いただいたひとり親の方には会員登録をいただきます。会員登録をしていただくと、ひとり親の方も週1回だけ無料で食事をすることができます。

＜ 秋田県内のこども食堂の状況 ＞



＜ 秋田県内のこども食堂の数 ＞

21カ所

※2021年3月当時

出典：秋田県調査『秋田県内のこども食堂一覧』

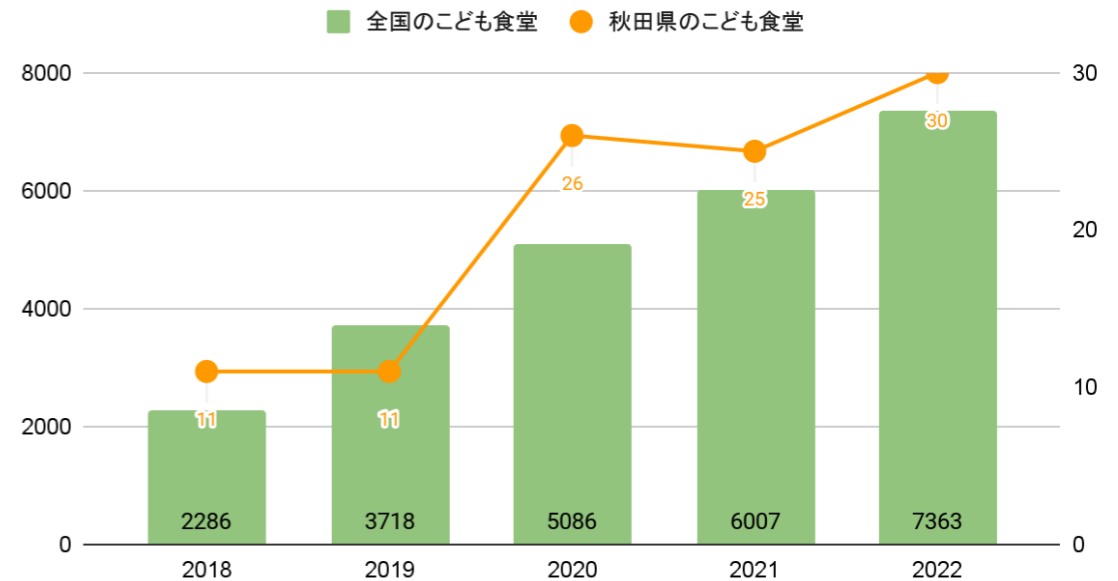
＜ 秋田県内のひとり親家庭の子どもの数 ＞

2023年2月13日【確定値】発表

都道府県名	2022年度調査結果										2021年度調査結果		
	こども食堂数		(参考1) 小学校数	充足率 (校区実施率)			人口比 (/10万人)		2021年比 増加数	2021-2022 増加率 (%)	こども 食堂数 2021年	充足率 (校区実 施率) (%)	充足率 (校区実 施率) 順 位
	箇所数	時点		こども食 堂のある 小学校数	充足率 (%)	充足率 順位	箇所数	人口比 順位					
北海道	244	2022.10.	959	187	19.50	37	4.71	35	10	4.27	234	18.00	30
青森県	51	2022.09.	258	43	16.67	43	4.10	38	6	13.33	45	14.50	39
岩手県	77	2022.09.	287	56	19.51	36	6.38	19	16	26.23	61	16.55	33
宮城県	120	2022.09.	361	92	25.48	17	5.29	28	11	10.09	109	23.91	15
秋田県	30	2022.03.	176	20	11.36	47	3.14	47	5	20.00	25	9.39	47
山形県	52	2022.09.	229	43	18.78	39	4.92	33	5	10.64	47	15.45	38
福島県	99	2022.09.	392	85	21.68	31	5.38	27	23	30.26	76	16.22	37
茨城県	144	2022.10.	443	107	24.15	24	4.98	32	28	24.14	116	18.78	24
栃木県	72	2022.10.	343	61	17.78	41	3.71	42	16	28.57	56	13.47	41
群馬県	98	2022.10.	299	75	25.08	19	5.04	31	21	27.27	77	20.86	21
埼玉県	342	2022.10.	800	151	18.88	38	4.63	36	88	34.65	254	21.09	20
千葉県	232	2022.10.	748	183	24.47	22	3.68	43	59	34.10	173	19.52	22
東京都	839	2022.10.	1,266	547	43.21	4	6.08	20	92	12.32	747	40.73	4
神奈川県	426	2022.09.	848	204	24.06	25	4.62	37	54	14.52	372	22.80	16

出典：認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ

＜ 秋田県内と全国のこども食堂数の推移 ＞



出典：認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ

秋田県のこども食堂は、単発開催や、飲食店併設のモデルがほとんどです。公的施設を使用しての月1～2回の開催、または飲食店を運営するところに附属しての開催が中心で、”こども食堂”として場所を構え、定期的に行っている”常設”のこども食堂は0カ所というのが実情でした。

また、秋田県のこども食堂は全国的に見ても一番少ない数となっており、充足率（校区にこども食堂がある小学校÷全県の小学校）も、47都道府県のうち最下位と、全国でも一番こども食堂の少ない地域であるという現状があります。

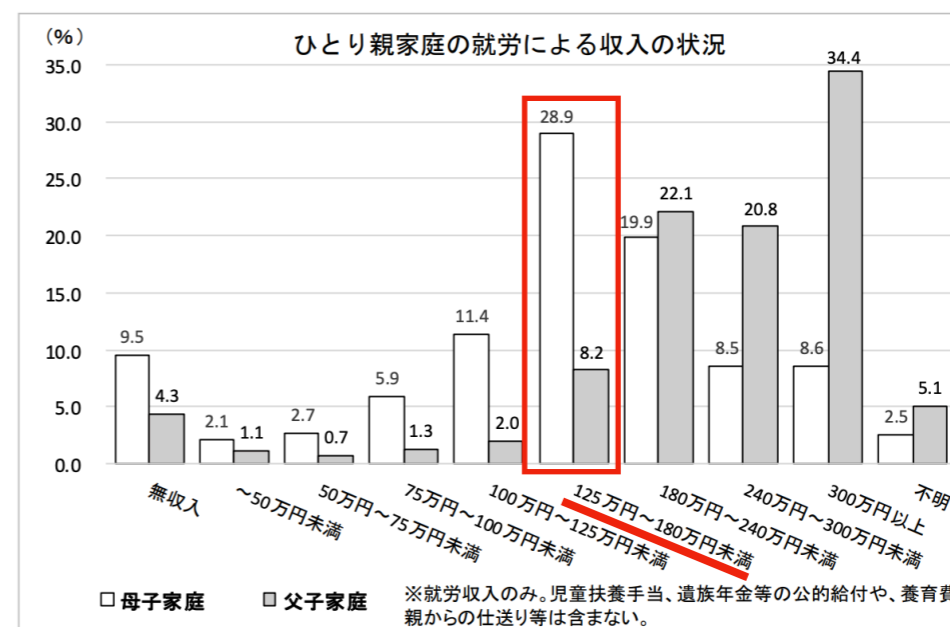
さらに、こども食堂事態を立ち上げて、運営費用や人材難の壁にぶつかり、持続的に運営する体制がつかれないため、立ち上がってはなくなり、という活動の増減が多くなっているのも実情です。

< 秋田県内のひとり親家庭の子どもの数 >

16,689 人

出典：秋田県（令和3年3月）『第2次秋田県子どもの貧困対策推進計画』

< ひとり親家庭の就労による収入状況 >



出典：秋田県（令和3年3月）『第2次秋田県子どもの貧困対策推進計画』

秋田県の調査によると、秋田県内のひとり親家庭の子どもの数は16,689 人となっている一方、県内のひとり親家庭の就労による収入状況を見ると、ひとり親家庭の就労による収入の状況は125~180万円がボリュームゾーンとなっています。秋田県は車社会であるため、ひとり親世帯の多くも車を所持しており、車の維持費や家賃・水道光熱費、衣服等の生活用品の購入費用等を考えると、食費が切り詰められているのではないかと推察がたち、なおさらこども食堂の存在が必要なのではないかと考えました。

前ページまでの課題

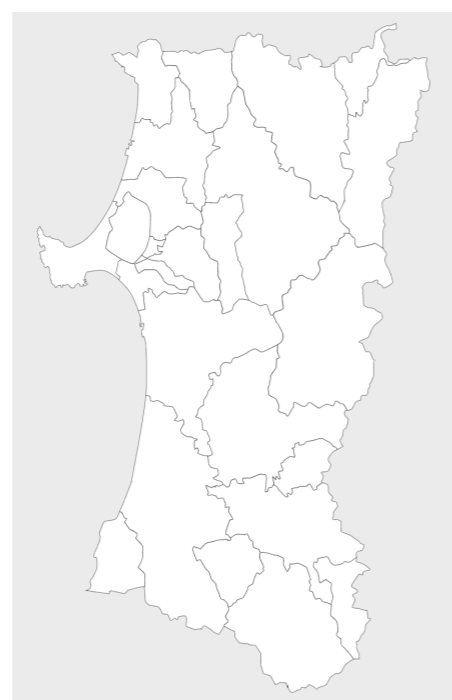
- ・秋田県内のこども食堂の不足
- ・秋田県内のひとり親の現状



上記の解決策の1つとして、常設のこども食堂を新設し、運営しています。

また運営に際しては、秋田県庁・秋田市役所・社会福祉協議会・NPOなど、今まで活動をされてきた専門機関・組織と連携しておこないます。これにより未来を担う子どもたちを、地域社会全員で育むことができるスキームづくりを目指してしています。また活動のプロセスにおいて、プロスポーツチームのもつエンターテインメントの力を活かし、こども食堂のイメージを、明るく・楽しい・安心できる場所というイメージにアップデートし、諸々の課題の解決ならびに改善に寄与します。

みんなのテーブルは、
秋田県内で初めて、かつ、
日本のプロスポーツチームとしては初となる
常設のこども食堂です。



秋田県内初の常設のこども食堂

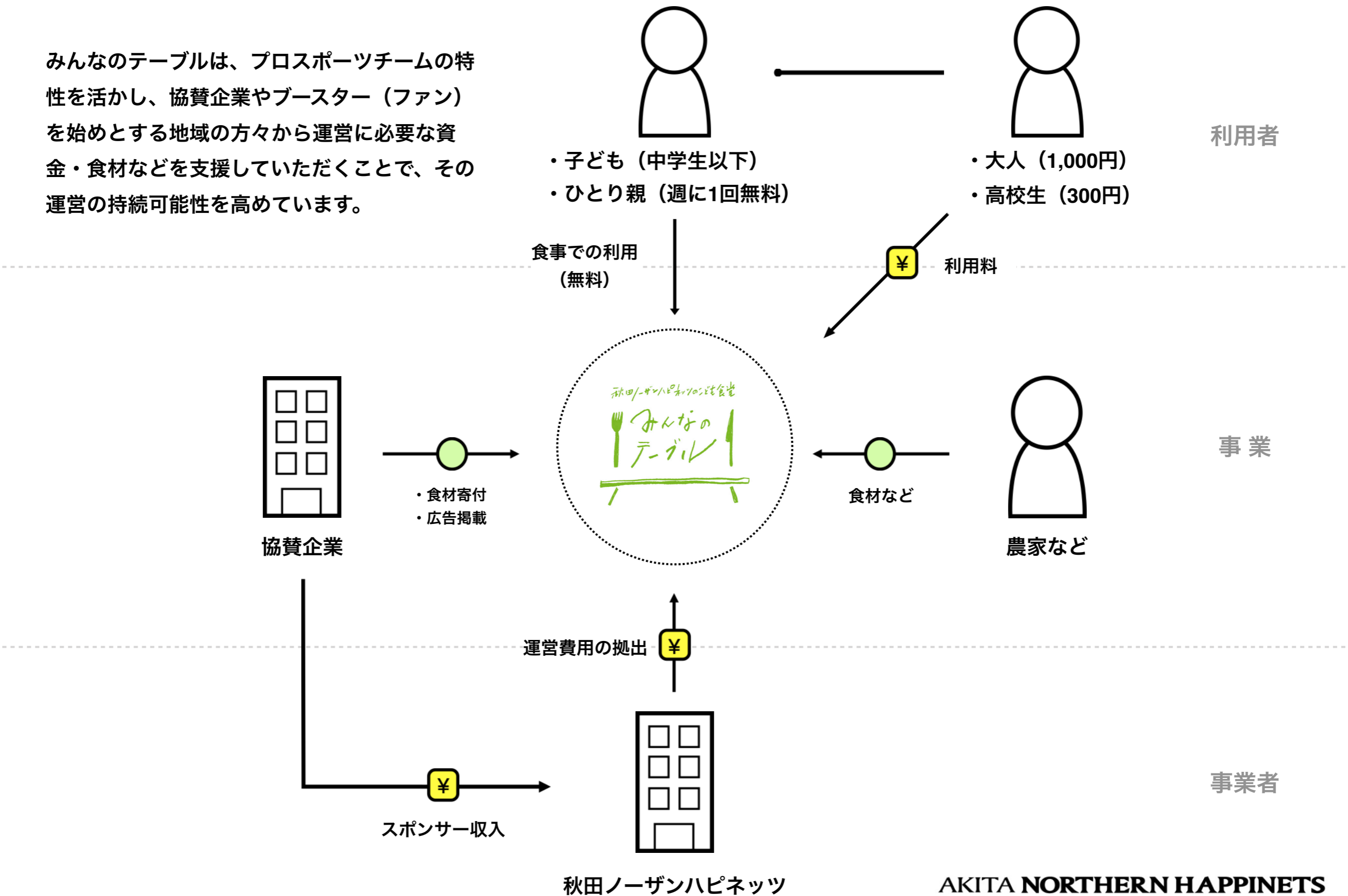
※2021年8月2日当時



日本全国のプロスポーツチームとして
初の常設のこども食堂

※2021年8月2日当時

みんなのテーブルは、プロスポーツチームの特性を活かし、協賛企業やブースター（ファン）を始めとする地域の方々から運営に必要な資金・食材などを支援していただくことで、その運営の持続可能性を高めています。

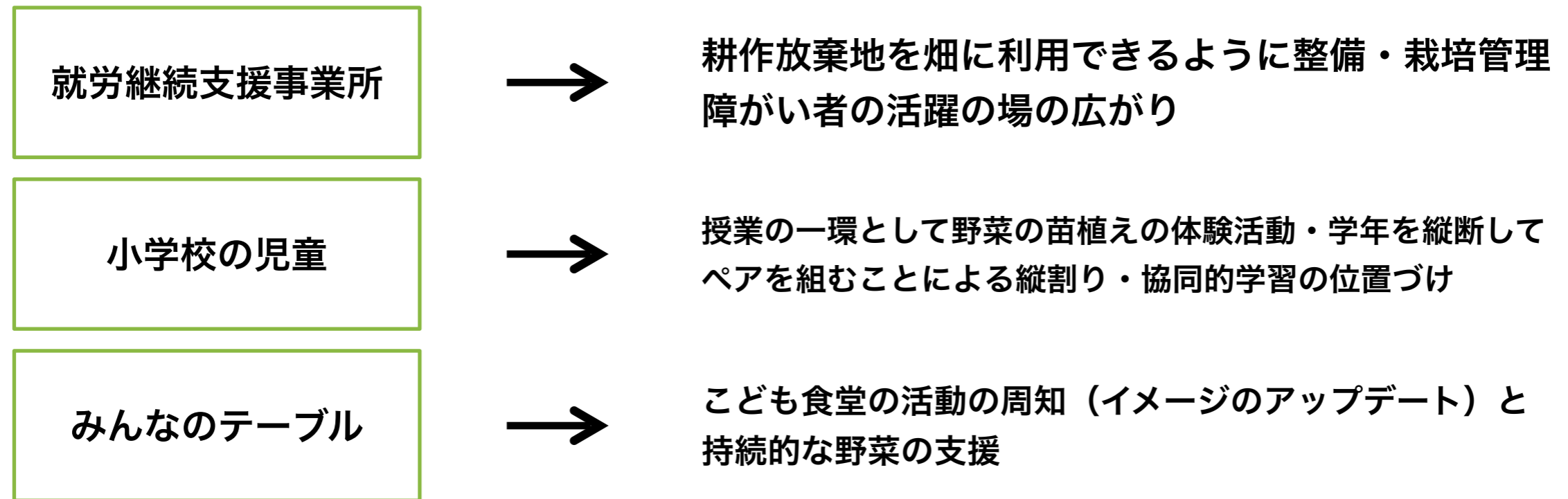


利用総数	6,157名（2,422組）
ひとり親	1,910名
高校生	342名
中学生以下	3,303名
関係者（選手・スタッフ等）	166名
大人（有料）	436名

1日の利用者平均は18名ですが、直近3ヶ月ですと、物価高の影響等からか、1日の利用者平均が25名となっています。多いときには最大84名の方にご利用いただいています。



地域の就労継続支援事業所・地元の小学校との連携事業を2022年から実施しています。



秋田ノーザンハピネッツに所属している選手と子どもたちが一緒に苗植えをします。こども食堂の理解を深めてもらう交流として出前授業も実施しています。収穫した野菜は、みんなのテーブルで活用します。

秋田ノーザンハピネッツでは、自社でクラフトビール事業（秋田あくらビール）を運営しております。ビール醸造過程で出る麦芽カスは、一般的に産業廃棄物となり処分しますが、乾燥させ肥料用にする取り組みを実施しています。実際にこの前頁の小学校との連携で使用する畑にも肥料として使用をしており、環境によい取り組みを実践しています。



麦汁として活用したあとの麦芽には、たくさんの水分が含まれているため、そのままでは肥料として活用することができません。

においがあるため、密閉されたビニールハウスで乾燥させることで水分をとばし、肥料として活用できる状態にします。

産業廃棄物の削減だけでなく、肥料としても実際に使用することで有効活用します。

秋田市と連携して、児童扶養手当受給世帯（2415世帯（令和4年12月時点））に対して、専用のチラシを定期的に配布・案内しています。チラシを「みんなのテーブル」に持参することで会員登録手続きを行い、週に1度、大人の方も無料で食事ができる制度にしています。地域のこどもたち・ひとり親を支援するため、行政との連携という点で、県内のほかの自治体（由利本荘市・にかほ市等）とも連携し、単発（月に1度）開催するこども食堂のご案内をしています。

また、秋田県社会福祉協議会が事務局となる”あきた子ども応援ネットワーク”と連携し、食料等の支援情報を共有し、地元の個人・企業の団体からの支援をいただいています。さらに、秋田県社会福祉事業・SDGs活動に関する講演会にも積極的に参加し、こども食堂の周知に務めるとともに、講演費用を運営に充てさせていただいております。



秋田県初の
常設のこども食堂
オープン

みんなのテーブル
SDGs

メニューについて

- ・メニューは日替わりです。
- ・管理栄養士監修の食事を提供しています。
- ・メニューの内容は、みんなのテーブル公式HPをご確認ください。
- ・1日あたり2つのメニューをご用意しておりますので、来店時にご注文ください。

営業日

- ・火曜日
- ・水曜日
- ・金曜日
- ・土曜日

上記の曜日【16:00-20:00】

※年末年始除く。休日の場合は、事前に公式HPでご確認ください。

料金

子ども(中学生以下)：無料
高校生：300円
大人：1,000円

※こちらのチラシ(無料招待券)を所持いただくことで、大人の方も週に1度無料でご利用いただけます。

必ず予約をお願いします。

予約方法：QRコードを読み取ってお申込みください。

※当日のご予約も可能です。ただし予約制のため、ご案内できない場合がございます。事前にご了承ください。

無料招待券 【有効期限】
2021年11月23日～2022年2月26日

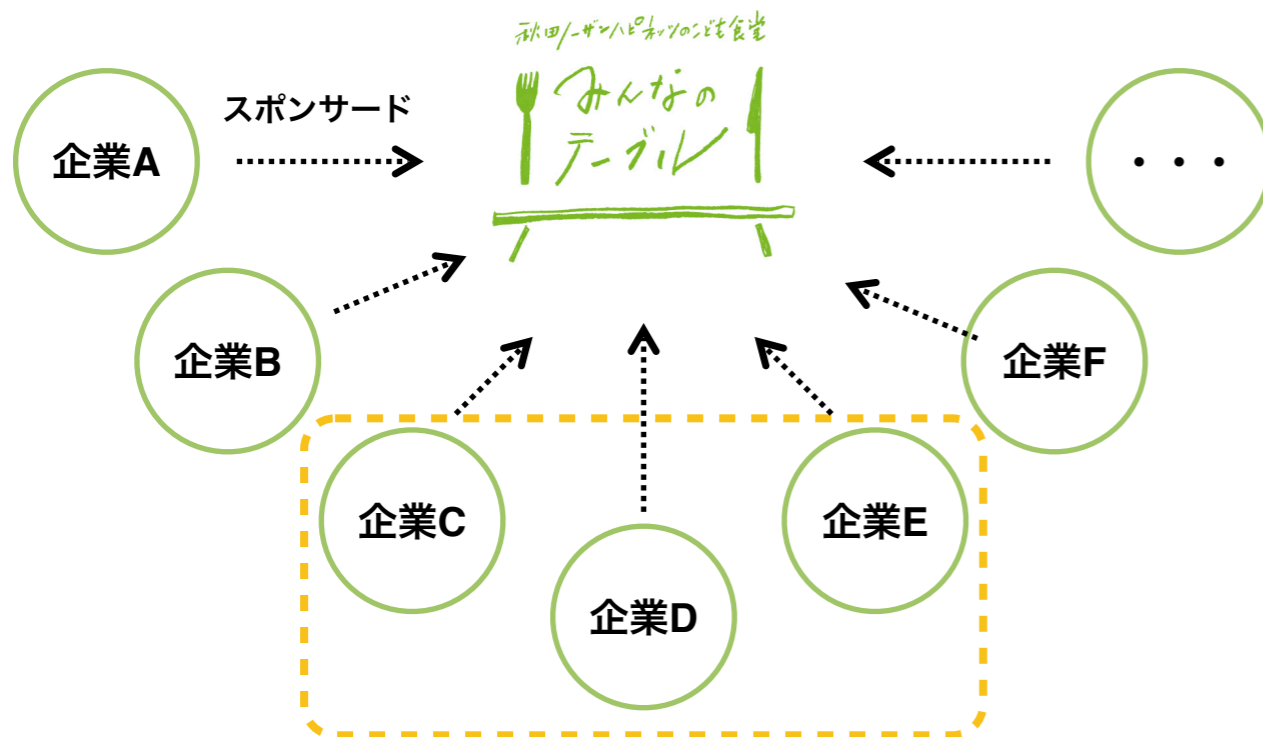
- ・このチラシをお店にご持参いただくことで大人の方の食事が無料になります。
- ・来店時に年齢・性別・住所をご入力ください。登録後、大人の方も週に1度無料でご利用いただけます。
- ・無料でお食事いただけるようになります。

- 【注意事項】
- ・このチラシを複数枚お持ちするとは限りません。
- ・このチラシを譲渡することはできません。
- ・お席のご予約は必須です。

定期的に配布・案内している専用のチラシ。

こども食堂の運営には年間およそ700～800万円の費用を必要としており、全国・県内の企業から運営資金のご寄付をいただいております。現在こども食堂に対しては25社の企業にスポンサードいただいております。内3社がプロバスケットボール事業へのスポンサードとは関係ないかたちで応援・支援をしてくださっています。みんなのテーブルだけでも支援したいという企業が活動に賛同してくださっていることは、「地域で子どもたちを育てる」というみんなのテーブルが目指すところに向けての強力な後押しであり、支援の輪をしっかりとつなぎ、今後も運営にあたってまいります。

<企業25社からスポンサード>



「みんなのテーブル」の壁面には「葉」をモチーフにした装飾があり、そこにスポンサー企業様を掲出しています。

オフィシャルパートナーであるポークランドグループ様と連携し、毎月1頭分の豚肉を無償で提供いただく取り組みをはじめています。スポーツチームの特性を活かし、スポンサー企業様とともに取り組むことで、こども食堂の課題解決（運営資金不足や安心な食材の持続的な確保など）を目指します。

野菜等と違って規格外・販売に適していない部分があるわけではないため、企業の完全負担となりますが、弊社のこども食堂運営の理念にご賛同いただき、この取り組みがはじまりました。この取り組みの大きな特徴の一つは、弊社運営のこども食堂だけでなく、県内すべてのこども食堂を対象にお声がけし、地区ごとにローテーションする形式で、全県のこども食堂に豚肉の無償提供を実施しています。県産の安心・安全で栄養価のあるお肉が無償で手に入ることは、こども食堂の活動の大きな助けになり、県内9割以上の団体様と、これまでに連携をさせていただいております。こうした取り組みを仕組化することで、スポーツチームだからこそできる取り組みを、地域に貢献する形で発展していければと考えています。



JA秋田なまはげ様が直営する野菜の直売所と連携し、規格外の野菜の提供BOXを設置いただいております。別事業（自社のパン納品）の運搬の際に、そのBOXから野菜を頂戴して、運営に活用をさせていただいくルートを構築しており、時期によっては野菜だけでなく、お米や生花等もご寄付いただいております。



前出の通り、秋田県は全国でもこども食堂の充足率が一番低いという課題を抱えています。そこで、スポンサー企業様と連携し、拠点のある秋田市だけでなく、ほかの自治体でも定期的にこども食堂を開催しています。1カ月に一度定期的に実施し、行政とも連携をしながら、利用者の”居場所”として機能するようにつとめています。



- ・資金面だけでなく、プロスポーツチームの特性を活かし、スポンサー企業様と連携したイベントも実施しています。多くのスポンサー企業様に”みんなのテーブル”の活動に理解をいただいておりますが、オフィシャルパートナー3社と連携して実施している具体的な取り組みをご紹介します。
- ・「iKEYAKUホールディングス株式会社」様は、「農業支援」「調剤薬局運営」や「介護施設運営」事業を展開しております。その中で、調剤薬局や介護施設運営の部門・管理栄養士と連携し、食育のゲームなどをみんなのテーブルにて実施、少しでも子どもたちに食に対する関心を高めてもらう取り組みをしています。
- ・「城東スポーツ整形クリニック」様とは、所属するJSPO公認スポーツ栄養士と連携して、スポーツ栄養学の観点から提供する食事のメニューをアスリート・成長過程にある子どもたちにとってどう有効か、などの定期WEB連載や、レシピを公開して、食への栄養の興味をもってもらう取り組みをしています。
- ・「あきたアグリサポート」様は農産物の卸売・販売業務を中心に事業をされている企業です。取り組みとしては、地元農家さんとのネットワークを活用し、枝豆の収穫体験を実施。収穫体験だけでなく、当日みんなのテーブルにて調理・提供することで、地産地消の取り組みと、料理のおいしさ・奥深さをさらに感じてもらうことを目指しています。



運営にあたり欠かせないのが、ボランティアスタッフの皆さんの存在です。

高校生～70代の方まで、幅広い地域の方たちに、ご自身のライフスタイルにあわせて活動に参加していただいています。スポーツチームの特性を活かした弊社試合会場でのスポーツボランティアさんの活躍だけでなく、あきた子ども応援ネットワークからの紹介や、直接の応募など、きっかけは様々ですが、現在、約40名ほどのスタッフに活動をいただいています。店内の装飾品も、季節ごとにボランティアの方が手作りで変えてくれています。また、秋田県は雪国ですので、冬季期間はどうしても除雪作業が必要になります。そうしたところでも、ボランティアスタッフの皆様が多くお力添えをいただいております、地域の方と協力して運営にあたっています。



お米の寄付をたくさんいただいております、1粒も無駄にすることのないよう、おいしい状態を保つため、保冷庫を購入し、米の品質維持につとめています。

保管庫は、秋田市内の連携NPO様のオフィスに設置しており、共用することで米のベース拠点として、県内の様々な団体にもいきわたるように調整をしています。

実際に違う団体でも、弊社に寄付いただいたお米を活用し、こども食堂などの取り組みを実施しています。

※農家さんに県内団体への配布として事前に許可を得ています。



地域の小学校・中学校・高校の体験学習を積極的に受け入れています。特に小・中学生は、ご家族との利用にもつながっているだけでなく、食材のご寄付のネットワークが広がったりもしています。生活科や総合的な学習の一環としての機会となっており、こども食堂のイメージのアップデートに寄与しています。



これまでに350を超える個人・団体の方から、食材等のご提供をいただいています。個人の方では、静岡県に在住の方から、名産品としてお茶のご寄付をいただいております。「みんなのテーブル」にて緑茶を提供させていただいております。また、スポーツチームの特性としてファン・ブースターの皆様の存在がありますが、農家の方もいらっしゃり、そうした縁で食材のご寄付もいただいております。



地元の調理師会「大秋会」と連携し、季節にあった献立を楽しんでもらうイベントも開催しています。七夕や正月など、年5回、プロの料理人さんに腕を奮っていただいています。正月には餅つきイベントを開催し、こどもたちに初めての餅つき体験を提供することができました。ついたお餅を自分で食べてたくさんのこどもたちに笑顔になっていただきました。こども食堂のイメージのアップデートを目指すうえで、こうしたイベントには足を運びやすい家庭も多く、利用のきっかけづくりにもなっています。



チームスタッフや、選手もオフシーズンにこども食堂を利用しています。新型コロナウイルスの影響もあった時期・シーズン中は来店を控えていましたが、こどもたちにとって、地元のプロスポーツ選手との交流は貴重な経験となっています。ただ、こどもたちにとって良い機会となっているだけでなく、選手にとっても良い影響があります。

みんなのテーブルの食事は選手（プロアスリート）が食べることを考え、管理栄養士がたてた献立を中心に提供をしています。アスリートにとっても栄養価の高い食事ができることはもちろん、こうしたコート外のかかわりで、プロスポーツ選手であるという自覚をあらためて感じるだけでなく、こども食堂のことを率先して考えるようになってきています。

野菜や本の寄付といった活動であったり、試合への招待であったりという活動を実践してくれています。



秋田ノーザンハピネッツ所属の古川選手は、クリスマスのホームゲームに、自身の企画として、こども食堂の利用者や、ひとり親世帯を対象に無料招待をする企画（写真撮影等の対応つき）を実施してくれました。

また、一部選手が、アウェー遠征の度に、こども食堂にご当地のお土産を買ってきてくれ、それを帰りに渡すこともしたりという活動も、選手の自主性から生まれました。

会社としても、これまで2度、ひとり親世帯を対象にホームゲーム活動に無料招待を実施し、スポーツチームのもつエンターテインメントを楽しんでもらうことで、より明るく・より元気になれることを目指しており、これまでにのべ500名以上をご招待しています。



<こども食堂のイメージの変化>

「もっと利用しづらいと思ってたけど、雰囲気がよくて、気持ちよく利用させてもらってます」

「食事をするだけの所と思っていたが、実際は会話がありアットホームな雰囲気でした」

「行きにくい雰囲気を想像していたけど、街のカフェみたいな雰囲気で入りやすかったです」

「参加しにくいイメージだったが、スタッフの方々がとても親切で子供にも話しかけてくれるので、気軽に参加できるイメージに変わった」

「この春から高校生になります。少し利用しづらいですが、とてもいい取り組みだと思います。物価高で生活が苦しいけど、それを言えない方がいると思います。もっと、沢山の方に知ってもらえたらいいのに」

「思ったよりも明るくて楽しい雰囲気でした。お友達とも偶然会って楽しく過ごしました。」

「利用後に、明るい雰囲気でオープンであったこと、キッチンスタッフの方達フレンドリーで親切だったことがとても嬉しかったし、安心して食事を楽しめました。お金を払ってもまた利用させて頂きたいと思いました」

<食事について>

「もっと質素な献立だと思っていたが、とても豪華で驚きました」

「当初のイメージはもっと質素で一汁一菜的な食事と想像してたので豪華でバランスも考えられた食事でした。ひとり親の知り合いに声かけしたりしてます。」

<"みんなのテーブル"を通して見られるお子さんの変化>

「静かに食事ができるようになった」

「綺麗に食べるようになりました」

「週一の楽しみにしている」

「キレイに残さず、食べるようになった」

「だらだらとご飯を食べることがなくなりました」

「食べに行くとき声をかけてもらえて嬉しそうです」

「食材に興味を持つようになった」

「一緒に出かける事が増えました」

「食べ物に興味を持つようになった」

「あいさつを少し言えるようになった」

「食べ物の栄養について、よく質問してくれるようになりました」

「バスケットに興味をもつようになった」

「病気の為、時々しか、学校に行けてないので、唯一、外出するきっかけになってます」



県民球団として地域のハブとなり、
下記のビジョンを達成することを目指しています。

- ①こどもたちの笑顔を中心とした地域コミュニティを築き、秋田の未来づくりに貢献する。
- ②他地域のプロスポーツチームが模倣できるように、秋田ノーザンハピネッツのこども食堂「みんなのテーブル」をモデル化する。
- ③その他のこども食堂への食材・備品寄付の仕組みを構築することで、運営費用を抑え、持続的な運営が可能な状態にする。

